

## 防災アンケートのまとめ（報告書）

中の村自治会では、R6年度に三次市自治活動支援交付金を取得して防災分科会を設置し、専門委員を委嘱した上で2年間の活動計画を立てた。初年度の活動目標の1つが防災上の課題の把握であり、その手段として防災アンケートを7月20日に開始し、8月中旬から9月下旬にかけて5常会分を回収することができた。それを集計し専門委員の検討を経て報告書にまとめることができた。

### 1. アンケートの回収結果

常会員のほぼ全員から回答が得られており、意向がかなり正確に把握できたのではないかとと思われる。

	市場	駅組	大坪	木舟	中所	計
常会員数	18	22	15	11	9	75
回収数	18	21	14	11	9	73
うち記名	11	21	14	11	9	66

### 2. 設問に対する回答内容

設問（1）～（13）までの項目ごとに回答内容を常会別に集計し表で示した。併せて、表の前後に「要約」として回答内容の要約と「考察」として専門委員の考察を書いた。

（Q1）ハザードマップ（被害想定図）等で居住場所の危険性を確認したことがありますか。

〔要約〕 約7割がハザードマップで危険性を確認しているが常会間で差がある。

	市場	駅組	大坪	木舟	中所	計
はい	7	16	13	10	5	51
いいえ	11	5	1	0	3	20

〔考察〕 思い込みやこれまでの経験に基づいたイメージ的で、現状の危険を確実に把握できておらず、最悪の状態はどうなるかの客観的な情報としての把握ではない可能性がある。

（Q2）避難判断の情報を知る方法は何ですか。

〔要約〕 テレビ、音声告知、常会連絡網およびスマホが活用されている。

	市場	駅組	大坪	木舟	中所	計
テレビ	8	11	7	4	3	33
音声告知放送	6	10	7	8	8	39
常会連絡網	8	5	6	5	4	28
近隣者	3	2	0	1	1	7

サイレン	3	8	3	3	1	18
スマホ	6	12	6	6	3	33
その他		PC	ネット			

[考察] スマホ以外は相手側の動作に依存する情報源であり、情報を取りに行けるスマホの重要度が増すのではないか。逃げ遅れを防止するためには、常会連絡網での徹底した確認連絡が必要である。

(Q3) 避難先、ルートは決めて確認していますか。

[要約] 約8割が避難先とそこへ至るルートをあらかじめ決めており、どの常会も同じような傾向である。

	市場	駅組	大坪	木舟	中所	計
はい	14	17	10	11	8	60
いいえ	4	2	4	0	1	11

[考察] 避難先とそのルートの危険性について確認する必要がある。ただし、川地CCや地域集会所の安全性については別途検討し、その結果を住民に知らせる必要があるように思われる

(Q4) 避難先はどこですか

[要約] それぞれ自宅から近い安全な避難所に目星をつけている。複数選択の回答もあり、災害の進展状況で集会所から川地小などへ移動することを想定している可能性もある。

	市場	駅組	大坪	木舟	中所	計
基幹避難所(川地小)	8	4	7	7	9	35
補助避難所(川地CC)	2	16	4	5	2	29
地域避難場所(集会所)	8	4	0	2	0	14
ぬくもり	0	0	0	0	0	0
その他	7(注1)	4(注2)	4(注3)	駅会館	知人宅	17

注1：専正寺6、三次ワイナリー

注2：親戚、自宅3

注3：自宅3、親せき宅、

[考察] 浸水想定区域内避難所や被害状況悪化に伴い避難先を変更することになった場合の避難ルートについての安全性確認などが必要である。具体例を示すと、

- ・どのような状態になったらどこに避難し、状況が悪化した場合は次にどこに避難するか。

→ 具体的避難行動計画の作成・再確認

- ・地域避難場所（地域集会所）から基幹避難所（川地小）に移動する場合  
→ どの状態、どの時点で、どのルートと方法ですか。
- ・地域避難場所（地域集会所）が限界（危険度の定義）になった場合、安全に移動できるのか。  
→ 避難ルート、状態の限界設定

(Q5) 避難時の持参物を決めて準備していますか

[要約] 準備していない人も多い。災害に水害を想定しているためかもしれない。

	市場	駅組	大坪	木舟	中所	計
はい	12	13	8	8	3	44
いいえ	6	8	6	3	6	29

[考察] 十分なものを準備しているかについては疑問が残る。必要な物品と数量について啓発を図る必要がある。1～2日程度の避難であれば、飲食物や毛布は持参する。持病薬やミルク離乳食等も持参する必要があるのではないか。

(Q6) 避難方法はどうしますか

[要約] 8割が自力で、家族の支援を併せれば9割を超える。一方、近隣者等の支援が必要な方が7戸ある。

	市場	駅組	大坪	木舟	中所	計
自力	11	17	13	11	8	60
家族の支援	2	2	0	1	2	7
近隣者の支援	2	3	1	0	1	7
その他	3(注1)	1(注2)	0	0	0	4

注1：家族が動けない、記載なし

注2：とどまる。

[考察] 近隣、常会、地域で確実な支援体制を確保しておく必要がある。また、高齢者等の避難先について、単純に基幹避難所を選択するのではなく、知人の存在などを考慮した多様な検討も必要

(Q7) 避難行動に支援が必要な方がいますか。

[要約] 各常会とも1名以上おられ、中の村全体で15名おられる。

	市場	駅組	大坪	木舟	中所	計
はい	3	5	1	1	5	15
いいえ	13	16	13	10	4	56
その他		注				

注：今のところ自力で出来ますが高齢などでどうなるか分かりません。

[考察] 災害発生時の対応が期待される常会長や自治会長らと民生委員や介護施設側との定期的な情報交換が必要ではないか。

(Q8) 設問7で「はい」と答えた方は、その方の支援が24時間確保できますか。

[要約] 支援が必要な方のうち、5名は24時間体制での支援が難しい。

	市場	駅組	大坪	木舟	中所	計
はい	2	4	0	1	3	10
いいえ	1	1	1	0	2	5

[考察] 実態に応じた支援体制を構築することが必要  
(避難行動要支援者票により確実に整理)

(Q9) 避難を決断するのはどのような状態の時ですか。

[要約] 避難指示や近隣者の声掛けが多いが、自己判断(川の水位、TVやネット情報、その他)によって避難を決断するという回答も多い。

	市場	駅組	大坪	木舟	中所	計
避難指示	7	15	9	7	8	46
近隣の掛け声	5	2	1	3	1	12
川の水位	7	8	6	4	4	29
TVやネットの降雨情報	3	6	3	5	1	18
その他	1(注1)	2(注2)	1(注3)	0	0	4

注1: 自分で総合的に判断

注2: アプリ(NERV防災)、自分自身が危険を感じた時

注3: 自己判断

[考察] 自らの判断に必要な知識の習得が課題で、そのための啓発活動が必要になる。逃げ遅れ者を防止するため、常会連絡網等で確実に知らせることが重要である。

(Q10) 今までに避難したことがありますか

[要約] 過去に水害を経験した常会(中所、駅組、大坪)は、避難経験者が多く、それ以外の常会でも半数以上が避難を経験している。

	市場	駅組	大坪	木舟	中所	計
ある	8	16	8	5	9	46
ない	8	4	6	6	0	22

[考察] 避難所で感じた要望、問題点など経験で得たものを出し合って、改善していく必要がある。

(Q11) 前問で「いいえ」と答えた方は、避難をしなかった理由は何ですか。

[要約] 「災害の経験なし」と「危険を感じない」が 33 例中 21 例と多い。一方、避難の必要性を知らなかった（避難の目安不明、避難手段なし、避難の必要性に気づけない）も 12 例あった。

	市場	駅組	大坪	木舟	中所	計
避難の目安が不明	1	1	2	1	0	5
災害の経験なし	3	5	0	4	0	12
危険を感じない	2	2	3	2	0	9
避難の手段なし	0	0	0	0	0	0
避難先の居心地	1	0	0	0	0	1
避難の必要性に気づけない	2	0	1	0	0	3
その他	1(注 1)	1(注 2)	1(注 3)	0	0	3

注 1：特に感じたことがない。

注 2：避難場所の設備が整っていないので不安感がある。

注 3：内水による家屋浸水が常に心配である。

[考察] 従来の経験に頼るだけだと危険である。特に昨今の激しい豪雨からすると安全性の評価が十分ではない可能性がある。災害状況の変化に応じた合理的な避難計画を作成しておく必要がある。

(Q12) 避難先に求めること（もの）は何ですか・・・複数回答可

[要約] 複数選択の結果、プライバシー、トイレ、飲食物の順に多く要望されている。避難先の設備や構造に対するものと、運営体制に関するもの（飲食物、情報）に分けることもできる。

	市場	駅組	大坪	木舟	中所	計
プライバシー	8	10	9	5	9	41
飲食物	6	11	3	7	7	34
トイレ	10	12	7	9	7	45
情報	4	9	4	5	7	29
毛布	0	4	1	4	6	15
その他	0	3(注 1)	2(注 2)	2(注 3)	0	7

注 1：地域集会所の老朽化が心配で駅会館は水道・トイレがないので不安、消耗品の確保（生理用品など）、車待機

注 2：液体歯磨きなど口内を清潔に保つもの、安全

注 3：地震(耐震構造ではないため)、Wi-Fi 環境

[考察] 飲食物は、多くが短期の避難と予測されることから、避難所スタッフの負担を考慮し、避難者が持参する啓発が必要ではないか。トイレは、避難を躊躇させる要素となっており、高齢者等へ配慮した整備が必要である。全体的に避難所毎にバリアフリー、トイレ、浸水対策など実態に応じた再評価と整備が必要である。

(Q13) 自然災害で他にも心配なこと（例：漏水、ガケ崩れ、倒木など）がありますか。あれば内容を記入して下さい。

常会	意見
市場	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 浸水 地震で家は崩れる。</li> <li>② 数年前に裏山のガケ崩れにより家の裏の溝が増水し、家、納屋が浸水しました。</li> <li>③ 地震です。この間もピオネットとかで大音量ですごく怖かったです。</li> <li>④ ペットと一緒に避難できるか。</li> </ul>
駅組	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 家のすぐ横に用水路/農水路があり浅くて流れが悪いので増水が心配です。</li> <li>② 浸水、地震による建物の倒壊</li> <li>③ 避難しない、グランドホテルに避難、高齢者ベッド等が無いと座れない、現在入院中</li> <li>④ 両親には持病があり、数年前コミュニティセンターへ避難したことがあります。体調を崩しやむなく家に帰ったことがあります。避難所で過ごす事が難しい状況です。</li> <li>⑤ 災害発生時、会長（中の村）副会長の所在がはっきりしていないと連絡や相談・指示をしてもらわないと常会長等が困るのではありませんか。（三役所在の明確化）例えば自治会間等</li> <li>⑥ 家の前で水が溜まりやすい。ポンプで水を汲み出すことがある。</li> <li>⑦ 脚の調子が良くない。腰</li> <li>⑧ ほとんど歩けない、動くのも困難</li> </ul>
大坪	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 避難場所が低いところなので近所の方と時々話をしています。</li> <li>② 末國征男さん宅付近の市道 160 号線の水漏れ、要支援者にタクシー券を出す。</li> <li>③ 増水時に道路下より湧水が出る（川水が家の中に入る）。</li> <li>④ 玉岡貴司さん宅から市場橋へ抜ける道路、山側のガケ崩れ倒木により道路及び板木川がふさがれる危険性がある。</li> <li>⑤の1 避難が優先ですが河川の整備（土砂の撤去等）も必要と思われる（江の川、中所付近ほか）。ハード面の整備も必要。異常気象は現行では異常ではなくなっている。国市等へ並行して要望すること。</li> <li>⑤の2 今回のアンケート対象者のうち何人が過去に災害にあった経験があるでしょうか。</li> <li>⑥ 堤防の決壊、⑦漏水</li> </ul>
木舟	山くずれ、地震（1件）
中所	地震（2件）

[考察] 今後、これらの意見について個別に検討し対応することが必要である。